



2025年2月14日

各位

会社名 株式会社Kaizen Platform  
代表者名 代表取締役執行役員 CEO 須藤 憲司  
(コード: 4170、東証グロース)  
問合せ先 執行役員 朝井 秀尚  
(ir@kaizenplatform.com)

**通期業績予想と実績の差異及び法人税等調整額(損)、特別損失の計上に関するお知らせ**

2024年2月14日に公表しました2024年12月期(2024年1月1日~2024年12月31日)の連結業績予想と実績に下記の通り差異が生じました。また、2024年12月期において、下記の通り法人税等調整額(損)及び特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。

1. 2024年12月期の連結業績予想数値と実績の差異(2024年1月1日~2024年12月31日)

単位: 百万円

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益 又は経常損失(△)	親会社株主に 帰属する当期 純利益又は純 損失(△)	1株当たり 当期純利益又 は純損失(△)
前回発表予想 (A)	4,500	250	10	0	△30	△1円77銭
実績 (B)	4,523	229	△28	6	△171	△10円17銭
増減額 (B-A)	23	△20	△38	6	△141	△8円40銭
増減率 (%)	0.5	△8.2	-	-	-	-
(参考)前期実績 (2023年12月期)	4,343	239	△25	11	△21	△1円29銭

2. 差異の理由

グロースセグメント、トランスフォーメーションセグメント共に、当社において既存顧客の継続受注とトータル提案に努めた結果、顧客単価が向上しました。特にトランスフォーメーションセグメントにおけるコンサルティング売上が堅調に進捗し、売上高は4,523百万円と前回発表予想を上回りました。

営業利益については、米国事業の不振が響き、前回発表予想を下回る△28百万円となりました。

経常利益については、受取利息34百万円の計上により、前回発表予想を上回る6百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純損失については、上記記載の売上高、営業利益、経常利益の差異及び法人税等調整額(損)、特別損失の計上により、前回発表予想を下回る△171百万円となりました。



### 3. 法人税等調整額（損）及び特別損失の内容

当社は、2024年12月期第4四半期累計期間におきまして、以下のとおり、法人税等調整額（損）及び特別損失を計上しました。

当社は、現時点での将来の課税所得を見積り、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額（損）を15百万円計上いたしました。

また、当社のUXCRMに関わるソフトウェア及びソフトウェア仮勘定として計上している資産につきまして、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて回収可能性を検討し、保守的に収益見込み等を勘案した結果、当該ソフトウェア及びソフトウェア仮勘定の帳簿価格の全額を減損処理し、特別損失121百万円を計上いたしました。

以 上